

多摩研 第47回
議員の学校

申込み方法 【会場・オンライン同一価格】

- 部分参加(1講義あたり)
 - ・都道府県・政令市・特別区議会議員……………13,000円
 - ・上記以外……………9,000円
- 全参加(講義3つ+グループワーク)
 - ・都道府県・政令市・特別区議会議員……………37,000円
 - ・市議会議員……………25,000円
 - ・町村議会議員……………15,000円
 - ・多摩住民自治研究所会員(議員)……………22,000円
 - ・市民……………1講座:1,000円 全参加:3,000円



下記の申込書をFAX [042-514-8096] または、
e-mail [tamajitiken1972@space.ocn.ne.jp] でお送りください
多摩研ホームページの「申込フォーム」



◀ [http://www.tamaken.org/?page_id=2156] からもお申込みいただけます。

*複数名でお申込みの場合でも、全員分の下記項目を必ず明記の上、お申し込みください。
・お名前 ・e-mailアドレス ・ご住所 ・携帯番号(電話番号)

FAXまたはメールで受講申込みを受け付け次第、受講案内、宿泊施設案内等をお送りします。

◆お問合せ TEL 042-586-7651



●主催
NPO法人多摩住民自治研究所

多摩研 第47回

議員の学校

Change!
その先に地方政府への道

オンライン
会場定員6人(先着順)



2022
10/24(月)
/25(火)



- 会場:日野・市民自治研究所
http://hino-shiminjichi.jp/xoops/modules/pico/index.php?content_id=6
- 見逃し配信サービスあり(2023年1月末まで)

「若者の声が生きる自治体をつくる
—宮下与兵衛さんの実践から学び、若者の声を聞く—

2016年の公職選挙法改正によって「18歳選挙権」が実現し、高校3年生の年齢で各種選挙に投票参加できるようになり、民法改正により、「成年年齢」が20歳から18歳に引き下げられました。本年6月には、子どもを権利の主体として捉え、すべての子どもの権利を総合的・包括的に保障する「こども基本法」が制定され、来年4月には施行されます。日本はいま、歴史的な転換期を迎えており、国も自治体も、子ども・若者の声を聴き、政策に反映させる新たな取り組みが急務です。

今回の議員の学校は、

- ①日本における「主権者教育」の具体的な実践の道を切りひらいてこられた宮下与兵衛さんの理論と実践から学ぶこと
- ②若者の声が生きる地域・自治体づくりに取り組んでいる各地の実践的事例から学び合うこと
- ③参加者同士で自由闊達に情報を交流し、実践的な知恵を出し合うことを目指して開催されます。
- ④そして、日本の近現代史のなかで、政府や国民がどんな努力をしたか、軍国的政策で何が起きたか、などの実例にふれ、日本国憲法がえがく平和で民主的な社会の一員として、子ども・若者たちが生き生きと生活し、活動できる地域社会を展望します。

多摩研 第47回
議員の学校 参加申込書

*全項目にご記入をお願いします

■ 氏名(ふりがな) _____ ■ 領収書の宛名(政務活動費をお使いの方は正確にご記入ください)

■ 住所 〒 _____

■ 電話 _____ ■ FAX _____

■ 携帯電話 _____ ■ 今後の多摩研の催しのご案内
 e-mail FAX 郵送 希望しない

*添付ファイルを受信できるPC等のアドレスをご記入ください

■ e-mail _____

■ お申込み内容(必ずいずれかに✓をお願いします)

●お立場

- 都道府県・政令市・特別区議会議員
- 市議会議員
- 町村議会議員
- 多摩住民自治研究所会員(議員)
- 多摩住民自治研究所会員(議員以外)・市民

●ご参加 会場 オンライン

- 全参加
- 集中講義に参加
- 実践報告に参加
- シリーズ講義(5)に参加

●グループワークへのご参加

- する しない



「議員の学校」とは 多摩住民自治研究所[多摩研]の「議員の学校」は、「住民と地域に役立つ地方議員になりたい」という議員の皆さんの声にこたえ、「政党内派を問わずに、だれもが参加できる学校」として始められました。平成21(2009)年のことです。幸いにして、各地の議員の皆さんの積極的なご参加と、協賛された各分野の講師の方々のすぐれた講話によって、かけがえのない歩みを重ねてまいりました。

■集中講義(13:10~14:40)

宮下与兵衛氏(みやした よへえ/東京都立大学・特任教授。元長野県辰野高校教諭)

◆1(13:10~13:50)

なぜ、世界の若者と異なり日本の若者は主権者意識が低いのか

2016年から18歳選挙権が実現し、文部科学省は主権者教育を実施している高校は全国で95.6%(2019年度)と発表していますが、若者の選挙の投票率は30%台前半で上がっていません。また、地域づくり活動や社会問題解決への参加も低調です。しかし、世界の若者たちは日本の倍以上の選挙参加、また気候変動防止活動や差別反対運動などの先頭に立っています。なぜ、日本の若者だけが主権者意識が低いのか、その原因を考え、そして、世界の若者の活動をつくらしている主権者教育・民主主義教育について考えていきます。

◆2(14:00~14:40)

子どもの声が生きる学校づくり、若者の声が生きる地域づくり

国連・子どもの権利委員会は、「日本では、子どもに関係することを決める時に学校でも自治体でも会議に子どもの代表を参加させて決めていない、参加を確保すること」と勧告してきました。長野県辰野高校では25年前に学校運営に生徒と保護者の代表が参加する「三者協議会」を設置して校則や施設・設備の改善をすすめてきました。また、高校生と地域住民が話し合う「学校フォーラム」を設置して、高校生たちは地域づくり活動を続けてきました。子どもを主人公にした学校づくり、若者を主人公にした地域づくりを考えていきます。

■実践報告(第1日 15:20~16:40)

自治体への若者参加についての実践事例から学ぶ

齋藤愛彩氏(さいとう あや/山形県遊佐町 元少年町長)

岩崎弘宜氏(いわさき ひろまさ/茨城県取手市 取手市議会事務局次長)

この講義では、若者が主権者として自治体の政策等に参加するための事業を実践している自治体および事業に参加した若者の実践報告を通して、具体的な展望や課題について学び合います。

1つは、山形県遊佐町の「少年議会」についてです。2003年から開催していて、そのうちの3年間「少年町長」をつとめた齋藤愛彩さんからのご報告です。「少年議会」に参加して、齋藤さんの意識や行動がどう変わったかなど、現在の活動等も含めてお話いただきます。

もう1つは、茨城県取手市の「議会を知り、未来を語る」取手二中と取手市議会の実践報告です。こちらは、取手市議会事務局次長の岩崎弘宜さんにオンラインでご登壇いただきます。2016年から、取手市立取手第二中学校と市議会でおこなってきた事業についてのご報告です。中学3年生の生徒が各グループで議案を作成し、投票を通して議案を絞り込み、最終的には、実際の議会で、市議会議員と生徒と共に審議をする取組みです。

■シリーズ講義(5)(第2日 10:00~11:40)

「学制」公布150年——日本の近現代史のなかの「子ども・若者の権利」——日本国憲法がえがき、明日の主権者に託していること

池上洋通氏(いけがみひろみち/「議員の学校」学校長、多摩住民自治研究所理事)

すべての子どもたちに「義務教育」を受けることを定めた「学制」が公布されたのは、明治5・1872年—今年はその150周年にあたります。この講座では、①150年のあいだに、国民自身も含めて、どのような努力と現実があったのかの実例を知り、②いま直面している「共通問題」を確認し、③憲法と法に基づいて、自治体が行うべき政策を語ります。

■グループワーク(第2日 12:55~14:35)

5~6人の少人数(グループ)に分かれ、初日の集中講義と実践報告の学びを振り返りながら、各自の課題などを交流します。議員の仕事の意義をより深められる自己紹介・表現の時間です。

■質疑応答・まとめ(第2日 14:45~15:45)

ご自分の自治体について、個別的なご質問にもお答えする形で進めていきます。それぞれのまちの課題等を、ぜひ、お持ち寄りください。

■集中講義 宮下与兵衛氏

東京都立大学・特任教授。元長野県辰野高校教諭。研究テーマは、若者論、主権者教育論。他の研究者たちと日・米・仏・独・ニュージーランドの生徒参加による主権者教育の比較研究をしている。「開かれた学校づくり全国連絡会」共同代表。

■著書 『学校を変える生徒たち』『地域を変える高校生たち—市民とのフォーラムからボランティア、まちづくりへ』『高校生の参加と共同による主権者教育』(いずれも、かもがわ出版) 編著:『子ども・学生の貧困と学ぶ権利の保障』『高校生からの「憲法改正問題」入門』(いずれも、平和文化)『校則、授業を変える生徒たち—開かれた学校づくりの実践と研究』同時代社



■シリーズ講義(5) 池上洋通氏

1941年静岡県生まれ。講師は自治体職員、研究機関常勤役員、千葉大学教育学部非常勤講師(社会教育原論)などの経験を持つ地方自治理論・政策の実践的研究者。著書・論文は地方自治体論をはじめとして、保健医療、社会福祉、教育、防災など、自治体政策の全分野にわたります。

■著書 『シリーズコロナと自治体5 「学び」をとめない自治体の教育行政』(2021年、自治体研究社)、『いのちを選ばないで』(2019年、大月書店)、『生きたかった——相模原障害者殺傷事件が問いかけるもの』(2016年、大月書店)、『市立学校をつくる教育ガバナンス』(2005年、大月書店)、『人物でつづる戦後社会教育』(2015年、国土社)、『大震災 復興へのみちすじ』(2011年、自治体研究社)、『ここから始める地方議会改革』(2007年、自治体研究社)、『市町村合併 これだけの疑問』(2001年、自治体研究社)他多数。



◆第1日 10月24日(月)

- 13:00 ~ 13:10 開会のあいさつ(学校長)
- 13:10 ~ 13:50 **集中講義 ◆1 (40分)** 宮下与兵衛さん
- 13:50 ~ 14:00 休憩(10分)
- 14:00 ~ 14:40 **集中講義 ◆2 (40分)** 宮下与兵衛さん
- 14:40 ~ 15:10 **質疑応答 (30分)**
- 15:10 ~ 15:20 休憩(10分)
- 15:20 ~ 16:40 **実践報告(実践20分+実践20分、質疑40分)**
コーディネーター 佐藤まさたかさん
- 16:40 ~ 17:00 連絡事項、写真撮影

◆第2日 10月25日(火)

- 10:00 ~ 11:40 **シリーズ講義(5)**(講義+質疑応答100分) 池上洋通さん
- 11:40 ~ 12:40 お昼休み(60分)
- 12:40 ~ 12:55 グループワーク準備(15分)
- 12:55 ~ 14:35 **グループワーク(100分)**
(自己紹介+講義内容交流60分/発表+質疑応答40分)
- 14:35 ~ 14:45 休憩(10分)
- 14:45 ~ 15:45 **質疑応答・まとめ(60分)**
- 15:45 ~ 16:30 閉会のあいさつ(理事長)、写真撮影等

program
 プログラム

